

研修主任

2023.10.29

研修主任というポジション、役割がある。他には、教務主任、学年主任、生徒指導主事、進路指導主事、保健主事などがある。研修主任は、30代前半で3年間、40代前半で1年間務めたことがある。小学校と中学校にはあるが、高等学校にはないポジションである。

この仕事のいい点は、業務が直接授業に関わることである。研修主任として勉強したことを、自分の授業に反映させることができる。先生方を巻き込んでいくことも魅力であり、醍醐味である。計4年間やってみたのだが、今、振り返るとどうだったのだろうと思う。

自分が研修主任を務めたときの資料を見つけた。改めて読んでみた。わかりやすくはない。「わかりやすい現職教育」「みんなでやる現職教育」「生徒を変える現職教育」をキャッチフレーズにしていたにもかかわらずである。あの当時、自分としては努力したつもりだった。しかし、先生方にとってはどうだったのだろう。何だか申し訳ない気持ちになってきた。よく、先生方は、お付き合いしてくれたものである。きっと、言いたいことはたくさんあったはずである。それなのに、私に任せてくれた。

使命感に燃え、責任も感じ、本を買って読んだ。それはよかった。勉強になった。だが、自分でやるのとみんなで取り組むとは違う。今思うと、みんなで取り組みたいことを、うまく翻訳して説明することができていなかったように思う。本などに書いてあることを、そのまま伝えていたのかもしれない。

二度目の研修主任のときには、協働学習をテーマにした。手だてとして、ジグソー学習を取り入れた。どの先生も、研究授業の際には、取り組んでくれた。だから、研究の成果をまとめた研究作品の出来栄はわるくはなかった。だが、ジグソー学習は、毎時間できるものではない。そこが弱かった。継続性や積み上げという点で難があった。

それに比べると、現在勤務している野田中学校の研究内容はわかりやすい。シンプルである。毎時間、取り組める内容となっている。この研究内容を考える際に、新たに本を読むことはしなかった。今までの知識と経験から考えていった。目の前の生徒を前にして、こうなって欲しいという願いから考えた。それがよかったのかもしれない。誰もが取り組みやすい研究内容となった。やっているかどうかを簡単に把握できる内容にすることができた。

若いときは、怖いもの知らずだったのかもしれない。みんなで取り組むべきことは考えていたが、翻訳力が足りなかった。申し訳ないことをした。知識も経験も足りなかった。先生方に迷惑はかけたが、自分のためにはなった。

今は、私が考えた研究内容を、研修主任が中心となって進めてくれている。学校全体を見ながら、謙虚かつ強力なリーダーシップのもと、先生方を牽引している。どの学校でも、授業改善には取り組んでいる。成果を上げるには、リーダーの存在が欠かせない。すなわち、研修主任の双肩にかかっている。だから、野田中学校では、研修主任のポストに授業力のあるエース級を投入している。若い頃の私とは違う。感謝しかない。